



効率性と利益性における強い企業という概念

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業はその強さを企業効率性と利益率において求められる。これが世界で戦う条件なのである。

これらは企業運営におけるコスト効率性を飛躍的に向上させ、高い利益水準と世界基準の給与水準を実現させることを求められる。これは小売における個別製品における原価に対する利益率の見直し、流通の効率化、小売り拠点の見直し、インターネットの活用における販売環境、生産効率の向上など、これらは国内基準が完全に経済戦争において敗北し、世界の基準への到達を要求されるという現実が突きつけられているということなのであると考える。これらは現状におけるソフト、ハード資産を活用し実現できうることなのである。

世界の先端における企業効率性と生産性への転換、それらにおける製品サービス基準とコストと利益基準への到達は、グローバル化における企業への要求であり、これらが未来という変化の基盤として企業の存続を与えることは真実であると考えられる。

これらは世界で戦える企業における企業基盤として、自己製品の技術とデザインにおける先端性への到達とともに、企業がその安定性を構築できるものであり、現状における企業のプレゼンスの拡大は、これらが永続するコアコンピタンスの構築を実現しているのである。

これらは市場変化と企業環境の変化が創造以上に早く、競争という経済の現実とともに、企業の生き残りの条件であることは、紛れもない真実なのである。

これら日本が経済戦争に敗北し、その競争から脱落したことは真実であり、他方において企業が自己において世界基準へ到達できることも存在するのである。

これら現在における市場環境は激変を過去に有し、更なる未来という現実に対してである。これら変化は飛躍的向上であり、その意味と価値は企業がそれら創造性を行うことにおいてこれら変化に対して勝利を得ることは、限りない意味を与えるのである。これらは日本企業がその企業努力において過去を有することが未来という現実の結果を有することが出来るということではあるはずである。これは GAFAM の有するプレゼンスが永続することは、それらが技術とサービスにおいてもはやその他の企業が到達できないことと同じなのである。